

時事英語に挑戦

写真は朝日新聞 1 月 19 日夕刊である。珍しく「時事英語に挑戦」に目が向かった。この記事で思い出すのが、数年前に大学で初めて担当した「教養英語」のことだ。

専門でもない者が担当すべきでないとして強く主張したが、結局 1 年限りで担当することになった。とにかく学生の興味を引く教材を探して、緊張の連続で講義した。まさに「キンチョーの春」であった。その時に使った教材の一つが「時事英語に挑戦」で、これを素材に問題を投げかけ、学生と議論した。

つい現役時代を思い起こしたが、今回の挑戦テーマはこれまた興味深い。上段は 13 日レポートにも書いた「NHK、政治家ネタ没」である。「冗談」ですまされない問題だ。下段は沖縄をめぐる問題であり、レポートに書こうとしていたテーマである。

中日新聞 1 月 10 日の特報「沖縄締め付け民意無視」は、特報らしいトーンで問題にせまる。「沖縄に寄り添う」と語った安倍首相の言葉とは裏腹に、沖縄県の米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設に反対する翁長知事への政府対応は、冷淡の一語に尽きる。昨年の知事選で示された民意に対し、政府は沖縄振興予算の削減というムチで応じようとしている。そもそも基地問題と振興策は別々のはず。

昨年 11 月、翁長氏に敗れた仲井真前知事は退任を前に官邸を訪れた。安倍首相と菅官房長官は「よく仕事しましたね」とねぎらったという。他方、翁長氏は昨年末と今年初めに上京したが、首相、官房長官はおろか、岸田外相や中谷防衛省も日程を理由に面会を拒否。まさに時事英語の“cold shoulder”であり、あまりに大人げない対応だ。政府権力による「沖縄いじめ」にはかならず、今後には禍根を残すであろう。

神奈川県逗子市長として、80~90 年代に米軍住宅建設に反対した龍谷大の富野教授は「仲井真氏が落選したのは、政府と一緒に金ばかりを重視し、県民の心を代弁しなかったからではないか。政府は政策判断の前に、まず選挙の民意を受け止めるのが民主主義だ」と指摘する。沖縄とりわけ辺野古にも目が離せない。

時事英語に挑戦



上京した翁長知事

put the kibosh on /
Popular comedy duo Bakusho Mondai said NHK put the kibosh on their plans to poke fun at politicians. =A JW

*put the kibosh on*は「～をやめさせる、終わらせる」。kiboshの語源は不明で、「抑えるもの、終わらせるもの」を意味する。例文は、お笑いコンビの爆笑問題がNHKの番組で政治家に関するネタを没にされたと明らかにしたことを報じた記事から。【訳】人気お笑いコンビの爆笑問題が、政治家を風刺するネタをNHKに没にされたと明かした。

cold shoulder /
“The cold shoulder is too abrasive,” said a homemaker in Ginowan about Onaga’s latest visit to Tokyo. =A JW

*cold shoulder*は「よそよそしい態度、冷遇、無視」を意味する。例文は、沖縄の翁長雄志知事に対する政府・自民党の冷遇ぶりを伝えた記事から。前知事への対応との違いに沖縄では反発の声が上がった。【訳】宜野湾市の主婦は翁長氏の最近の上京について、「あまりに露骨な冷遇だ」と話した。

(2015 年 1 月 23 日)